中等部

広島研修旅行

竹上尚子

今年で 15 回目となる中等部 3 年広島研修旅行は、共学化して 2 回目の実施であった。戦後 80 年の年でもあり、新たな視点で学習し、考える機会となった。

日程は 10 月 23 日（木）～25 日（土）の 2 泊 3 日で実施した。大久野島で日本軍が秘密裏に毒ガスを製造し、アジアで使用したという加害の事実と、広島では原子爆弾が投下され、多くの命が犠牲になったという被害の事実を学び、各自が事後のワークシートにてまとめを行った。

さらに特筆すべきは、学習の係を中心に、初等部 6 年生に広島での学びを伝える機会をいただき、旅行後に報告が出来たことである。係だけの発表となったが、学びを自分たちの言葉で「伝える」ことは長年の悲願であり、研修旅行のよいまとめにもなった（これについては後章参照）。

1. 準備期間

9 月にリーダー・係を決め、ミーティングを 3～4 回行い、準備を進めた。今年の中 3 は 60 名の学年だったので 2 クラスの教室が近く、リーダー同士の相談がしやすい環境だった。

【実際の組織】

リーダー：1 組 2 人　2 組 3 人　　計 5 人
宿泊　　：1 組 2 人　2 組 2 人　　計 4 人
交通　　：1 組 1 人　2 組 3 人　　計 4 人
記録　　：1 組 3 人　2 組 1 人　　計 4 人
学習　　：1 組 2 人　2 組 1 人　　計 3 人

係のミーティングを 3 回ほど行い、進捗を共有しながら準備を進めた。

2.事前学習

①夏休みの課題：戦争や原爆に関する本を読み、体験者に寄り添い自分ごとにするための課題に取り組んだ。9 月以降に互いの紹介文を読み合い、各自の学びをクラスで共有した。

②調べ学習：旅行で訪れる大久野島・平和記念公園を中心とした内容を項目立てし、クラスごとにグループに分かれて調べ学習を行った。スライドにまとめ、出発前の学習時間に発表、さらにB5版1枚の資料を作成し、小冊子を作成して、全員に配布した。

③学習の係：現地で講話をお願いしている児童文学作家の中澤晶子氏とのオンライン事前相談に参加し、自分たちの問題意識を聞いていただく機会を設けた。

④学習の係が初等部 5，6 年生向け特別授業に参加し、武蔵野けやき会の松田隆夫氏のお話を伺った。

⑤学習の係が学年に向けて広島クイズを作成し、関心を高めるためのクイズ大会を自主的に行った。

⑥調べ学習以外にも教科横断的に教員の協力を得て、教科ごとのアプローチも授業内で行った。（例：英語で「原爆の子の像」設立の元になった禎子さんの物語を読む、国語で大久野島のドキュメンタリー映画を見る、前期の共生学で太平洋戦争を始めとする近現代史に触れるなどを実施。）

3. 研修旅行

【 3 日間の行程 】

1 日目　大久野島（第 2 次世界大戦中、日本軍が秘密裏に毒ガスを製造していた島）
　　ガイドによる毒ガス資料館見学と島内の戦跡めぐり
2 日目　広島平和記念資料館
　　平和公園内の碑めぐり（広島友の会の案内）
　　平和についての講話と対話（児童文学作家で広島出身の中澤晶子氏）
3 日目　本川小学校（爆心地近くで被爆した小学校）
　　小学校内の平和資料館見学と説明
　　平和公園内周辺で自由行動

4. 中澤晶子氏の講話

講話をお願いした中澤晶子氏(1953 年生)は、学生時代を広島で過ごされ、その後も長きにわたり広島で児童文学作家として活躍されている。「14 歳のヒロシマ」シリーズの 3 部作を出版され、修学旅行生に同行された経験が題材になっているなど、生徒にも親しみやすい内容を執筆されている。

今年も午前中の碑めぐりから同行してくださり、生徒と交流を深めてからお話をしてくださった。平和資料館が数年前に改修工事をした際の地下の発掘現場から出土したガラス瓶や生活用品、資料館に保管されている被爆者の姉妹のワンピースの写真などを見せていただき、貴重な体験となった。

5. 広島友の会との碑めぐり

研修旅行が始まって以来、広島友の会会員による公園内の碑めぐりは続いている。今年も生徒は 5 グループに分かれ、班ごとに友の会の方がついて慰霊碑の説明をしてくださった。友の会の案内の方も高齢化し、若い会員に引継ぎながら毎年リハーサルまで行い、自由学園のために準備してくださっている。「伝えたい」という思いをもって生徒に話してくださるので、熱量と共に伝わることがたくさんある。

1945 年 8 月 6 日は多くの生徒・学生が建物疎開のために爆心地近くに来ており、当日は 6000 人もの生徒・学生が亡くなった。

また公園は整備されているが、実際はがれきを埋め立てて今の高さになっていることを聞きいたり、韓国人原爆犠牲者慰霊碑を始め、多くの外国人も犠牲になったことを知り、胸を痛め、平和を願った。

6. 研修旅行を終えて

全体リーダーの言葉「歴史を知り今に生かす」*

中等部 3 年は、10 月 23 日から 25 日まで広島研修旅行に行った。9 月始めにリーダー、交通、宿泊などの運営係と学習係を決め、準備を始めた。事前学習では広島や戦争について調べ、理解を深めた。今年は平和週間の学びとして、被爆経験者の橋爪さんのお話や羽仁進監督の映画「予言」を鑑賞する機会もあった。

1 日目は「ウサギ島」とも呼ばれる大久野島を訪れた。戦時中、日本軍が秘密裏に毒ガスを製造し、アジアで多くの命を奪ったという歴史を持つ島だ。ガイドの山内さんと共に毒ガス資料館や発電所跡を見学し、壊そうとしていた発電所を守るために多くの署名が集まった事や、加害の歴史を知る機会となった。

2 日目は朝から平和記念資料館を見学した。イヤホンガイドの説明を聞きながら原爆の被害を受けた人々の様子や遺品に向き合った。館内の対話ノートには外国の人の平和への願いも書かれていた。

広島友の会の案内で平和公園内の碑巡りをした。韓国人犠牲者や、女学生の慰霊碑などを見て、この地で本当にたくさんの人が命を落としたことを実感した。

午後には子どもの本作家の中澤晶子さんの講話を聞いた。原爆を受け心身ともに傷を負った人々の話や、「戦後に生まれた人には戦争をした責任はないが繰り返さない責任がある。」という言葉は皆の印象に残った。

3 日目は本川小学校を見学した。当時珍しい鉄筋コンクリート製の校舎は崩壊を免れ、一部が資料館として残されていた。原爆投下後、校舎は救護所となり、校庭は火葬の灰と臭いを消すための石灰を撒く工程を繰り返して出来た層が 7 層にもなっていた事を知った。当日、たった 1 人生き残った児童が、その時の悲惨な光景を語り継ぐ活動をされていたことも知った。

今年は戦後 80 年を迎え、戦争体験を直接語れる人が減少していく中での広島研修旅行だったが、歴史を学び同じ悲劇を繰り返さないために自分達はどうするべきかを考え直す機会となった。

中等部 3 年　広島研修旅行リーダー(K.I　N.Y)

7. まとめ

教員の体制としては、社会科の鈴木佑、屬も加わり、国語科の竹上と共に運営・学習面を担当した。引率として中 3 担任にも同行してもらい、学年全体で共有体験と学びが出来たことは有難かった。

戦後 80 年が経ち、被爆体験を語れる人の高齢化が進む中、歴史の事実に目を向け、被害と加害についてもっと知り、現代社会を見据えていく姿勢が必須であると痛感させられた。

引用文献

*中等部 3 年リーダー「広島研修旅行　歴史を知り今に生かす」『学園新聞 754 号』 2025 年 12 月 22 日発行



① 1 日目　大久野島見学



② 1 日目　大久野島見学



③ 2 日目　平和記念資料館見学



④ 2 日目　平和記念資料館見学



⑤ 2 日目　慰霊碑巡り



⑥ 2 日目　慰霊碑巡り（広島友の会の皆様と）



⑦ 2 日目　中澤晶子さんのお話



⑧ 3 日目　本川小学校平和資料館